

物音は一個にひとつ秋はじめ

藤田湘子

何だか禅問答のような句。

「季語別鷹俳句集」のアプリで「音・藤田湘子」で検索すると、十六句ヒットした。先生はあの大きな耳でいろんな音に敏感に反応していたのだなと思った。音を認識するのは脳。脳と心の秘密は脳科学の難問であるが、音を認識して感じるには、少なからず心の感受性が関係してこよう。音そのものを感じるのも、その音が固有の音であることを感じるのも、結局のところ湘子の抒情性に行き着いてしまう。「耳がいい」湘子はその鋭い感性で「一個にひとつ」の物音を聞き分けていたのだろう。

三年間続いた一日十句の初年半ば、苦しかった多作が楽しみに変わった頃の作。句集名となった句である。

1986年 (558.08.23作) 第六句集『一個』 鑑賞・野本京